

ABIC 国際社会貢献センター

Information Letter

No. 43 2015年6月

| | |
|--------------------------------------|----|
| 第47回理事会・第15回通常総会を開催 | 2 |
| 2014年度（平成26年度）事業報告 | 2 |
| 2015年度（平成27年度）事業計画 | 5 |
| 2014年度（平成26年度）決算及び2015年度（平成27年度）予算 | 6 |
| 役員等 | 6 |
| <hr/> | |
| 自治体・中小企業支援 福島での生活状況記 | 7 |
| ABE Initiativeをご存じですか | 8 |
| <hr/> | |
| 教育 兵庫県立西脇高等学校でグローバル人材育成について講演 | 9 |
| 一橋大学商学研究科HMBAの留学生プログラムの演習（ゼミ） | 10 |
| 小学6年生と共に学ぶ | 11 |
| <hr/> | |
| 留学生支援 日本語教師養成講座を振り返って | 12 |
| 兵庫国際交流会館での活動 | 13 |
| 東京国際交流館での活動 | 13 |
| <hr/> | |
| ABIC事務局組織 | 14 |
| 会員の種類 | 15 |
| 法人・個人正会員／賛助会員一覧、活動会員数 | 15 |
| 賛助会員入会のお願い | 16 |

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (ABIC)
Action for a Better International Community

<http://www.abic.or.jp>

〒105-6123 東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービル23階
Tel : 03-3435-5973 Fax : 03-3435-5970
e-mail : mail@abic.or.jp

【関西デスク】
〒541-0053 大阪市中央区本町4-4-24 住友生命本町第2ビル9階
Tel & Fax : 06-6226-7955
e-mail : kansai-desk@abic.or.jp

第47回理事会・第15回通常総会を開催

5月29日(金)、日本貿易会会議室において第47回理事会並びに第15回通常総会がそれぞれ開催されました。議題として①2014年度事業報告及び収支決算、②2015年度事業計画及び活動予算、③常務理事の互選、④理事の補充選任が審議され、いずれも原案通り承認されました。また副会長には、安永竜夫三井物産社長が新たに委嘱されました。



2014年度（平成26年度）事業報告

| 活動分野 | 主要事業 | 主な活動状況 ＜活動実績：2014年度 延べ人数2,043名＞ ＜活動会員数：2,561名（2013年度末比113名増加）＞ | 活動実績 (延べ人数) | | |
|-------------------|--|--|----------------|--------|---------------|
| | | | 2014年度 | 2013年度 | 00~14 年度累計 |
| 政府機関 関連 | ODA関連等 への人材推 薦・紹介、 政府関係諸 事業の受託、 本邦中小企 業支援関連 への人材推 薦・紹介、 人材育成セ ミナー等へ の講師派遣 等 | <ul style="list-style-type: none"> 海外での活動：JICA海外長期専門家（パキスタン、南アフリカ）、科学技術振興機構インド事務所長、内閣府対米広報短期派遣5名。国際交流基金「日本語パートナーズ事業」パートナー3名（タイ、ベトナム）。在ロシア日本センター研修事業講師4名。 国内での活動：JETRO非常勤嘱託職員（6名）・アドバイザー（7名）、JETRO新興国支援専門家（29名）、中小企業基盤整備機構の中小企業支援アドバイザー（4名）。文部科学省拠出金支出案件（国際移住機関/IOMが執行）「定住外国人の子どもの就学支援事業（虹の架け橋教室/筑波常総）」は6年目となった。 上記諸機関に加え、文科省留学生交流拠点整備事業委員及び留学生住環境の在り方検討委員、国際交流基金日本語パートナーズ事業委員等を務め、また、文部科学省、国際交流基金の他、経済産業省、中小企業庁、近畿経済産業局、関東経済産業局、関東財務局等とのコンタクトを継続・強化し、公募案件への推薦・紹介・受託による活動を行った。 | 96 | 84 | 1,183 |
| NGO/NPO 等非政府機関 | NGO等への 人材推薦・ 紹介、活動強 化への協力 | <ul style="list-style-type: none"> NPO国連世界食糧計画WFP協会アドバイザー継続（2名）、国際環境技術移転センターに専門家を紹介（インドネシア、ブラジル環境調査）。NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会の賛助会員としてNPO活動に関する情報収集を行った。 | 5 | 6 | 160 |
| 地方自治体・ 中小企業支援 | 地方自治体 の推進する 中小企業育 成支援（販路 開拓、海外ビ ジネス促進 等）や農産 品輸出促進・ 企業誘致等 への協力、 及び中小企 業、諸組織 への直接支 援・協力（海 外進出・経 営支援等） | <ul style="list-style-type: none"> 年間業務委託契約締結先の地方自治体（和歌山県/わかやま産業振興財団、山口県/産業振興財団、山梨県/産業支援機構、富山県/新世紀産業機構、千葉県/ジェトロ千葉貿易相談センター、石川県、横浜市、かがわ産業支援財団及びクレア（自治体国際化協会）との取り組み継続に加え宮崎県、愛媛県と首都圏販路拡大アドバイザーの取り組みを開始した。 他の地方自治体関係では、東京都中小企業振興公社ビジネスナビゲーター及び海外販路開拓アドバイザーの他、青森県/宮城県/神奈川県/埼玉県/茨城県/島根県/愛媛県/和歌山県の企業誘致や販路開拓アドバイザー等で活動、福島県での国際化支援アドバイザー、自治体関連組織での英語に加え韓国語、タイ語、ロシア語、中国語、ベトナム語の翻訳活動、私企業での海外ビジネスアドバイザー等の紹介・推薦を行った。また各自治体や大手金融機関主催のセミナーへの講師派遣も要請に基づき、都度行った。関西デスクでは、大阪府/東大阪市共同のクリエーションコア（3名）、大阪市/国際経済振興センター（4名）、神戸市/経済局のアジア進出支援センターと産業振興財団に総計50名のABICのメンバーが登録済みでその中から必要に応じて中小企業へのサポーターとして長期・短期で活躍している。2014年度は延べ11名が活動。地球環境センター継続。滋賀県産業支援プラザ（2名）とは覚書を更新し海外進出業務を含めた支援業務を遂行。 2014年度も過去の活動実績への評価が高まり、口コミ、ホームページ、会員経由等により、これまで実績のなかった地方自治体、中小企業あるいは諸組織からの支援要請が増加し、活動機会が広がっている。 | 793 | 591 | 3,977 |

| 活動分野 | 主要事業 | 主な活動状況 ＜活動実績：2014年度 延べ人数2,043名＞ ＜活動会員数：2,561名（2013年度末比113名増加）＞ | 活動実績 (延べ人数) | | |
|---------------|--|--|----------------|--------|---------------|
| | | | 2014年度 | 2013年度 | 00～14 年度累計 |
| 外国企業支援 | 外国企業の日本進出・販路開拓支援及び日本企業海外赴任者研修 | <ul style="list-style-type: none"> 7年目となった国際ナノテクノロジー国際総合展やFoodex 2015でのバイリンガル・ビジネス・アドバイザーをスペイン語圏在京大使館等から要請された他、在京オーストリア大使館からの依頼にも対応している。また、東南アジア企業への人材紹介、日本でのビジネスについての相談や商談支援も継続。新たに日本旅行業協会/㈱ジャタのツーリズムEXPOジャパン2014の通訳業務4名。在日サウジアラビア大使館商務官付き嘱託職員継続。 日本企業の海外赴任者赴任前研修等（日本貿易会から受託等）への講師派遣も継続している。他企業や大手異文化コミュニケーション研修会社へも異文化理解、グローバルビジネス交流等について講師派遣等、活動の幅を広げており活動数増が期待できる。 | 114 | 73 | 526 |
| 大学及び社会人講座 | 大学・社会人講座等での講座実施 | <ul style="list-style-type: none"> 44大学・組織へ講師派遣。年間講座数74、コマ数1,476を実施。対象組織数、年間講座数とも堅調に推移した。2014年度は特に新規会員の活動機会提供を優先し、講師の入れ替えや魅力ある講座の組み立てに注力した。 東京外国語大学社会・国際貢献情報センターと社会・国際貢献に関する包括協定書を締結した。 文部科学省主催のセミナーなどでABIC大学講座の取り組みPR活動を行った成果として、筑波大学、関西大学より講座新設依頼があり、2014年度に実現した。引き続き新規講座獲得に向けて各大学との協議を行っている。 | 278 | 278 | 3,563 |
| 教育 | 国際理解教育支援等 小中高校への講師派遣 在日外国人児童への日本語指導等 | <ul style="list-style-type: none"> 小中高校生や教職員への国際理解講義・講演会へ引き続き注力した。千葉県教育委員会での新任校長・教頭研修で2回講演を実施した。 国際理解教育では、市立横浜商業高校、青山学院中等部、市立横浜サイエンスフロンティア高校（=2014年度スーパーグローバルハイスクール/SGHIに採択）、大津市立栗津中学校、平安女学院高校、府立千里高校（SGHアソシエイトに採択）等14小中学校で出前授業を実施した。 関西学院大学（2003年2月に連携協力協定締結）との協力関係を進め、引き続き海外からの留学高校生と日本の高校生との「高校生国際交流の集い」（1泊2日）を関西学院大学で実施した。関東でも青山学院大学と連携し「高校生国際交流の集いABICキャンプ」を青山学院大学で実施した。 東京都多摩市及び新宿区において教育委員会等に協力し、外国籍児童・生徒に対する日本語学習支援を引き続き実施し、大変好評を得た。 滋賀県教育委員会学校支援センターHPにABIC関西デスクの国際支援教育活動内容を登録。併せ、京都市教育委員会にも同様の団体登録を行った。 | 140 | 99 | 897 |
| 在日留学生支援 | 在日留学生支援・交流 | <ul style="list-style-type: none"> 東京国際交流館において、引き続き日本語広場、日本文化教室に多数の講師陣を送ると共に、バザー、フェスティバル等の催しにも協力。今年度は、兵庫国際交流会館との協力も開始した。 2006年度から開始した国際交流館在住の留学生家族支援（健康診断、子女入園・入学手続き等）が増加し、大変好評を得ている。 | 458 | 382 | 1,926 |
| 国際イベント等 | 国際イベント等への協力 | <ul style="list-style-type: none"> 2014年4月～5月に開催された「世界卓球2014東京大会」に49名のボランティアを紹介。 | 49 | 0 | 136 |
| その他活動・一般人材紹介等 | その他活動・一般人材紹介等 | <ul style="list-style-type: none"> 会員会社の社会貢献事業への支援（三井物産推進の「在日ブラジル人子女教育支援」①奨学金供与プロジェクト②NPO等支援プロジェクト等）継続。長年に亘るブラジル人子女への支援活動などブラジル人コミュニティへの貢献を高く評価され2014ブラジリアン・インターナショナル・プレスアワードを受賞した。 教育関係で、過去に紹介した帝京大学/中京大学/日本文化大学/聖学院大学/神田外語大学の教授・講師及び東京外国語大学/東京学芸大付属国際中等教育学校の職員は継続となった。神田外語大学は既存のベトナム語、タイ語、インドネシア語各学科担当の職員に加え2014年度はイペロアメリカ学科の職員を紹介。又、立命館大学インド事務所長の人材紹介を行った。 ABIC日本語教師養成講座（第16、17期）を継続実施した。第1期から17期までの講座修了者153名の内約半数が地方公共団体や東京国際交流館において日本語講師として活躍している。また「エコロジー促進事業共同組合」が主催する外国人技能研修生集中研修の一部としての日本語研修に講師として参加、各地の国立青年の家で3名の会員が活動している。 日本貿易会内の業務効率化支援として、新聞クリッピングや午餐会・ゼミナールの講演録作成への協力を継続。 | 110 | 126 | 965 |
| 合 計 | | | 2,043 | 1,639 | 13,333 |

| | | |
|------------|----------------|--|
| 活動会員 関係 | 活動会員 増強 | <ul style="list-style-type: none"> 社会貢献・ABIC委員会委員を通じて、各社OB/OGへの配布文書や退職時の一連書類に同封願った。 |
| | 活動会員 スキルアップ | <ul style="list-style-type: none"> 今年度も大学・EC等 講座講師勉強会を実施した（東京11月7日 24名参加）。また今年度はネイティブスピーカーによる英語で授業をするための講習会も同時に実施。 2006年10月に開講した日本語教師養成講座を継続し、今年度は第16、17期合計14名が修了証を取得。第1期からの講座修了者は153名で修了者は主にボラティアとしての日本語講師として活躍している。 |
| | 懇親会 | <ul style="list-style-type: none"> 東京で9月、大阪で3月開催。 |
| 広報活動等 | | <ul style="list-style-type: none"> 活動会員、関係先向けの『ABIC Information Letter』を発行（年3回 6/11/3月 No.40/No.41/No.42）。 日本貿易会の機関誌『日本貿易会月報』に毎月「ABICプラザ」のコーナーでABICの活動報告や活動会員のレポートを掲載し、ABIC活動のPR、紹介に努めた。また日本貿易会のホームページにおいてもABICのホームページをリンクして貰っている。 プレーンズ2014年12月31日号及び在日ブラジル商工会議所会報12月号にてブラジリアン・インターナショナル・プレスアワード受賞の記事が掲載された。 文部科学省主催のグローバル人材育成推進事業、留学生交流拠点整備事業のシンポジウム及び国際交流基金日本語パートナーズ事業委員会等でABICのPRに努めた。 今年度は東京国際交流館主催の春・秋の新入館者歓迎会でのバザーに加え兵庫国際交流会館でも秋にバザーを実施した。また、夏の「交流館フェスティバル 2014」において、ABICが指導している茶道、華道、書道コーナーを設けて来場者に対応した。バザーについては、ABIC活動会員並びに社会貢献・ABIC委員会経由法人正会員各社役員から多くの品物を寄贈頂き、売上金の殆どを交流館の行事に役立てて貰うべく寄贈した。 |
| 事務局関係 | 事務局体制 | <ul style="list-style-type: none"> コーディネーターについては昨年度に引き続き22名体制とした。なお、在日ブラジル人子女教育支援の特定プロジェクトスタッフ及びパートタイマーとして、複数名任用。 <p>事務局長： 関 伊知郎</p> <p>経理・総務： 名鏡敬治、秋元里美、黒木裕美、青柳友紀</p> <p>地方自治体・中小企業支援グループ： 川俣二郎、野津 浩、白石一郎、新妻純一、(高塚謙次)</p> <p>外国企業支援グループ： 西山勝昭</p> <p>大学・EC講座グループ： 森 和重、猪狩真弓、布施克彦、谷川達夫、恩田英治、坂野正典、(藤原照明、吉富茂隆)</p> <p>小中高校国際理解教育グループ： 高塚謙次、(川俣二郎)</p> <p>産学協同プロジェクトチーム： (川俣二郎、橘 弘志、松尾謙二、高塚謙次)</p> <p>留学生支援グループ： 田中武夫、鎌形 勲</p> <p>中南米デスク： (森 和重)</p> <p>在日ブラジル人子女教育支援（三井物産案件）チーム： (森 和重)、畑 幸幸、高岡淳二、星野和俊、柴崎敏男、藤原真理、(千葉明子)、松本一子</p> <p>「虹の架け橋教室」推進チーム： (森 和重)、栗田政彦、千葉明子、他現場担当コーディネーター/パートタイマー</p> <p>関西デスク： 藤原照明、橘 弘志、吉富茂隆、松尾謙二</p> |
| | 事務局運営 | <ul style="list-style-type: none"> 経理担当職員が年度中に交代した。 ABIC規定集の見直しを実施。就業規則及び関連諸規定は理事会の承認を取得し全面改定した。 |

| | | | |
|------|------|--|--|
| 会員状況 | 正会員 | 法人 | <ul style="list-style-type: none"> 16社、1団体（2013年度比1社減）：伊藤忠商事、稲畑産業、岩谷産業、兼松、興和、JFE商事、住友商事、双日、蝶理、豊田通商、長瀬産業、阪和興業、日立ハイテクノロジーズ、丸紅、三井物産、三菱商事、日本貿易会（社名50音順） |
| | | 個人 | <ul style="list-style-type: none"> 11名（2013年度比2名増）：池上久雄、寺島寛郎、小島順彦、宮原賢次、吉田靖男、岡素之、佐々木幹夫、勝俣宣夫、小林栄三、檜田松瑩、市村泰男（入会順） |
| | 賛助会員 | 法人 | <ul style="list-style-type: none"> 5社（2013年度比1社増）：(有)イーコマース研究所、(株)エックス・エヌ、協同木材貿易(株)、(一社) 国際行政書士機構、NPO法人賛否両論（社名50音順） |
| | | 個人 | <ul style="list-style-type: none"> 395名（2014年3月末比2名減） |
| | 活動会員 | <ul style="list-style-type: none"> 2,561名（2014年3月末比113名増） | |

| 年度毎活動実績 | 延べ人数 |
|--------------|-------|
| 2000年度 (H12) | 17 |
| 2001年度 (H13) | 237 |
| 2002年度 (H14) | 444 |
| 2003年度 (H15) | 589 |
| 2004年度 (H16) | 569 |
| 2005年度 (H17) | 751 |
| 2006年度 (H18) | 779 |
| 2007年度 (H19) | 1,144 |
| 2008年度 (H20) | 1,305 |
| 2009年度 (H21) | 1,440 |
| 2010年度 (H22) | 1,428 |
| 2011年度 (H23) | 1,390 |
| 2012年度 (H24) | 1,601 |
| 2013年度 (H25) | 1,639 |
| 2014年度 (H26) | 2,043 |

2015年度（平成27年度）事業計画

| 活動分野 | 主要事業 | 重点活動内容 | 延べ人数 | |
|-----------------------|---|---|--------------|--------------|
| | | | 2015年度 目標 | 2014年度 実績 |
| 政府機関 関連 | ODA関連の 人材推薦、 政府機関諸 事業の受託、 人材育成セ ミナー等へ の講師派遣 | <ul style="list-style-type: none"> 海外での活動：JICA長期専門家・シニア海外ボランティア、国際交流基金「日本語パートナーズ事業」、内閣府対米広報短期派遣等の人材紹介・推薦。 国内での活動：JETRO中小企業海外進出支援・非常勤嘱託職員・貿易相談員、中小企業基盤整備機構中小企業支援事業アドバイザー、及びHIDA（財団法人海外産業人材育成協会）等での研修講師派遣の受託増。 経済産業省、外務省、文部科学省、観光庁、農林水産省、国際協力基金、JETRO、JICA、HIDA等とのコンタクト維持・強化。 | 100 | 96 |
| NGO/NPO 等非政府機関 | NGO等への 人材推薦・ 紹介、活動強 化への協力 | <ul style="list-style-type: none"> NGO、他NPO、国際機関とのコンタクト継続。 | 5 | 5 |
| 地方自治体・ 中小企業支援 | 地方自治体 の国際化・ 中小企業の 販売促進活 動・海外進 出・経営支 援・協力、 中小企業へ の直接支援 | <ul style="list-style-type: none"> 年間業務委託契約締結先の地方自治体（和歌山県/わかやま産業振興財団、山口県/産業振興財団、石川県、富山県/富山県新世紀産業機構、愛媛県、宮崎県、横浜市など）との一層の関係強化。新規地方自治体との年間業務委託契約の獲得。 継続支援・協力先の地方自治体（東京都ビジネスナビゲーター・海外販路開拓非常勤職員、大阪府/東大阪市共同のクリエイションコア、大阪国際経済振興センター、神戸市/産業振興財団、神戸市商工会議所、滋賀県産業支援プラザ、宮城県・和歌山県・愛媛県企業誘致アドバイザー等々）との一層の関係強化。他地方自治体（新潟県、佐賀県等）への積極的なPR推進の継続と受託案件の増大。 ジェットロ等外郭団体や中小企業からの直接支援要請に即応。 | 800 | 793 |
| 外国企業支援 | 外国企業の日 本進出・販路 開拓支援及び 海外赴任者研 修等 | <ul style="list-style-type: none"> 国際見本市や海外からの各種ミッション、在日大使館、来日外国企業の商談等への協力。外国機関駐日オフィスとのコンタクト強化・拡大。 在日海外企業との連携強化・拡大。海外赴任者研修講師派遣（含、日本貿易会との協働）。 | 110 | 114 |
| 教育 | 大学及び 社会人講 座 | <ul style="list-style-type: none"> 実施大学・組織およびコマ数の維持を図りつつ、講師陣の拡充を図り大阪大学等新規大学の発掘を積極的に行う。 提案型講座の拡大。 2006年1月に包括協定締結の立命館APUとの一層の関係強化。 2003年12月に連携協力協定書締結の関西学院大学との各種協力関係の維持・拡大（講座維持、国際理解教育協力等）。 スーパーグローバル大学・グローバル人材育成推進事業採択大学へのアプローチ強化。（筑波大学、山口県立大学、関西学院大学、立命館APU他）。 | 280 | 278 |
| | 国際理解 教育支援 等 | <ul style="list-style-type: none"> スーパーグローバルハイスクールをはじめ小中高校での講義・講演先の開拓。文部科学省、自治体教育委員会並びに日本経済教育センターとの連携強化。 産学共同プロジェクトとして、関西学院大学・青山学院大学と協力して2007年度から実施している「高校生国際交流の集い」の企画・実施。 多摩地区の小学校における在日外国人児童への日本語指導の継続支援。新宿区教育委員会「日本語指導支援（外国にルーツを持つ児童・生徒向け日本語指導）」支援の継続。 | 140 | 140 |
| 在日留学生 支援 | 在日留学生 支援 | <ul style="list-style-type: none"> 東京国際交流館における、日本語広場、日本文化教室に多数の講師陣を派遣すると共にバザー、フェスティバル等の催事への協力継続。新規に兵庫国際交流会館における日本語教室、日本文化教室の開講、バザーへの協力。 2006年度から開始し好評を博している東京国際交流館在任の留学生家族支援（妊娠、出産、通院、育児、健康管理、入園・就学等）のボランティア活動の充実。 | 500 | 458 |
| 国際イベント 等 | 国際イベント 等への協力 | <ul style="list-style-type: none"> ラグビーワールドカップ2019組織委員会との連携。 | 0 | 49 |
| その他活動・ 一般人材紹 介等 | その他活動・ 一般人材紹 介等 | <ul style="list-style-type: none"> NPO、NGO主催のイベントへのボランティア人材紹介、国際観光振興機構の善意通訳の紹介。 三井物産推進の「在日ブラジル人子女教育支援」プロジェクトへの実務支援の継続、日本貿易会並びに法人正会員各社の実施する社会貢献活動への人材面での支援・協力。 中京大学・日本文化大学等への教授・講師、東京外国語大学事務員、グローバル教育講師の契約更新継続。神田外語大学嘱託職員4名、立命館大学インド事務所長、科学技術振興機構インド事務所長等教育研究機関を主体とした人材の契約更新継続。民間企業への新規人材紹介発掘。 府中刑務所での通訳・翻訳支援活動継続。 ABIC日本語教師養成講座教師（継続）に加え、社会貢献に資する求人への積極的対応。日本貿易会の事務効率化支援・協力。 | 110 | 110 |
| 合 計 | | | 2,045 | 2,043 |

| | | |
|--------|------------|--|
| 活動会員関係 | 活動会員勧誘 | <ul style="list-style-type: none"> 社会貢献・ABIC委員会経由で各社OB/OGへの配布協力の継続要請、およびOB/OG会総会及びホームページ等でABIC紹介の機会を買い勧誘を実施。また、活動会員へも引き続き知己勧誘を依頼。 |
| | 賛助会員勧誘 | <ul style="list-style-type: none"> 賛助会員数の増加に向け、活動が決まった会員への賛助会員入会依頼を継続。 |
| | 活動会員スキルアップ | <ul style="list-style-type: none"> 日本語教師養成講座の第18期、第19期を継続開講（2006年10月から継続）。受講希望者の増加に対応する為今年より定員を8名から14名に増員。 大学等講座講師勉強会（含、英語授業法）を継続実施。 |
| | 懇親会 | <ul style="list-style-type: none"> 東京・大阪での開催を予定。 |
| 法人会員関係 | 法人会員勧誘 | <ul style="list-style-type: none"> 法人会員増に向けて注力。 |

| | | |
|-------|--|--|
| 広報活動 | <ul style="list-style-type: none"> 活動会員、関係先向けの「ABIC Information Letter」を発行（年3回 6/11/3月）。 日本貿易会の機関誌『日本貿易会月報』に毎月「ABICプラザ」のコーナーやJFTC News（英文）でABICの活動報告や活動会員のレポートを掲載。 ABICパンフレット・ホームページの内容見直し・更新及び一層の充実。 東京国際交流館・兵庫国際交流会館が主催する春・秋のバザーへの協力や「交流館フェスティバル」にてABICのPRや活動紹介を行う。 文部科学省の「留学生交流拠点整備事業」、「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」、国際交流基金「日本語パートナーズ事業」委員会等でのABIC広報活動継続。 新聞、TV、ラジオ、雑誌等へのABICの露出度拡大（マスコミへの積極的対応）。 | |
| 事務局関係 | 事務局体制 | <ul style="list-style-type: none"> コーディネーター相互の情報交換促進のためコーディネーター会議を年4回開催。 東京事務局と関西デスクの連携強化。 |
| | 事務局運営 | <ul style="list-style-type: none"> 各種データの整理等、業務改善への更なる注力。 諸契約、規則・規程の整備・充実。 |

2014年度（平成26年度）決算及び 2015年度（平成27年度）予算

(単位：千円)

| 科目 | 2014年度 決算額 | 2015年度 予算額 |
|-----------|---------------|---------------|
| I 経常収益 | | |
| (1) 受取会費 | 6,995 | 6,995 |
| 法人会費 | (4,880) | (4,870) |
| 個人会費 | (2,115) | (2,125) |
| (2) 受取寄付金 | 77 | |
| (3) 事業収益 | 102,649 | 88,284 |
| 日本貿易会 | (24,192) | (24,192) |
| その他 | (78,457) | (64,092) |
| (4) 雑収益 | 8 | 11 |
| 経常収益計 | 109,729 | 95,290 |
| II 経常費用 | | |
| (1) 事業費 | 79,251 | 72,944 |
| (2) 管理費 | 32,416 | 29,950 |
| 経常費用計 | 111,667 | 102,894 |
| 当期経常増減額 | -1,938 | -7,604 |
| 前期繰越正味財産額 | 27,549 | 25,610 |
| 次期繰越正味財産額 | 25,610 | 18,006 |

役員等

(敬称略・就任順)

| | | |
|-------|---|--|
| 会 長 | 小林 栄三 | 一般社団法人日本貿易会 会長 伊藤忠商事株式会社 取締役会長 |
| 名誉会長 | 檜田 松瑩 | 前当センター会長、前日本貿易会会長 三井物産株式会社 取締役会長 |
| 副 会 長 | 小林 健 加留部 淳 中村 邦晴 佐藤 洋二 國分 文也 (新任) 安永 竜夫 | 三菱商事株式会社 代表取締役社長 豊田通商株式会社 代表取締役社長 住友商事株式会社 代表取締役社長 双日株式会社 代表取締役社長 丸紅株式会社 代表取締役社長 三井物産株式会社 代表取締役社長 |
| 理 事 長 | 齊藤 秀久 | 一般社団法人日本貿易会 常務理事 |
| 常務理事 | 山口 寿夫 関 伊知郎 | 一般社団法人日本貿易会 政策業務グループ部長 国際社会貢献センター 事務局長 |
| 理 事 | 三輪 裕範 秋元 諭宏 末原 勉 砂田 一彦 (新任) 角田 裕一 (新任) 山本 浩幸 (新任) 菊地美佐子 (新任) 小林 克昇 | 伊藤忠商事株式会社 伊藤忠経済研究所長 三菱商事株式会社 理事 グローバル渉外部長 双日株式会社 広報部長 一般社団法人日本貿易会 総務グループ部長 兼 政策業務グループ部長 住友商事株式会社 環境・CSR部長 豊田通商株式会社 総務部部長 三井物産株式会社 環境・社会貢献部長 丸紅株式会社 市場業務部部長補佐 |
| 監 事 | 天野 正義 | 一般社団法人日本貿易会 専務理事 |
| 顧 問 | 池上 久雄 吉田 靖男 三幣 利夫 市村 泰男 | 初代当センター理事長、元日本貿易会常務理事 元当センター理事長、元日本貿易会常務理事 元当センター理事長、元日本貿易会常務理事 前当センター理事長、前日本貿易会常務理事 |
| 参 与 | 宮内 雄史 野津 浩 名鏡 敬治 | 初代当センター常務理事、初代当センター事務局長 元当センター常務理事、元当センター事務局長 元当センター常務理事、元当センター事務局長 |

福島での生活状況記

福島県貿易促進協議会海外販路開拓専門員 なかじま あきら
中嶋 昭 (元 蝶理)

小生はこれまで駐在5カ国、通算23年（このうち東南アジア3カ国、通算15年）を経験し、2012年に最後の赴任地のマレーシアより帰国。その後、他の企業で2年間勤務し、2014年2月ABICからの募集に応募、首尾よく採用されて、2014年5月より福島県の海外販路開拓の仕事を開始した。ほぼ1年が経過し、福島県の現状およびその間のさまざまな体験を述べさせていただきます。

具体的な業務内容としては、県産品（主に農産物および日本酒等の加工食品）の海外への販路開拓で、そのための海外展示会への出展、海外顧客（インポーターおよびレストラン）開拓、県内業者への貿易相談等が主たる業務となっている。

福島県の現状としては、原発事故から4年が経過し、除染作業を通じて、浜通りの一部を除いて、ほとんどの地域は生活上全く問題ないレベルまで放射線量は下がり、一部の地域以外でのその数値は香港と同じレベルで、実際のところでは中国の上海は小生の居住する福島市よりも3倍くらい高い数値といわれている。

しかしながら、一度染み付いたイメージの払拭は難しく、日本国内でも福島県産品というだけで拒絶されるケースがあるのも事実で、震災前の主な市場であった東アジアの地域での販売は輸入規制および風評被害が強く、特に難しい状況である。今後ともに、メディア招聘・海外の業務筋への売り込み等を通じた息の長い取り組みの必要性を実感している。

県庁の所在地である福島市は福島県の北部に位置し、周りが山に囲まれた盆地で、一日の中でも寒暖差が大きく、そのため、おいしい新鮮な野菜が楽しめる。自宅から仕事場まで自転車で7-8分の距離で季節の変わり目を感じながら、これまで東京より北での生活を経験したことがな

かった小生にとっては、日々新たな感がある。冬には、近くを流れる荒川でサケの産卵や大空を飛ぶ白鳥の姿等、北国ならではの風情だ。

その代わり冬の寒さは尋常ではなく、寒さに体がついていけずダウンしたり、通勤途上で氷の上で転び肋骨にひびが入ったり等、今年（2015年）65歳の老体には若干厳しいものがある。

しかしながら、「明るく、元気に、前向きに」をモットーとした職場の雰囲気や、人情味あふれる周りの人たちに囲まれて、自分の求められている役割を果たすことに集中できており、多くの困難はあるものの福島へ来て良かったと実感しているところである。

当地では歓迎会や県外からのお客さまとの飲み会が多くあり、そのたびに県内のいろいろなおいしいお酒（福島は有名な酒どころ）を飲み、これまで日本酒に興味がなかった小生もすっかり日本酒党になった。ちなみに福島県は日本酒の全国新酒鑑評会で金賞受賞数が2年連続で日本一である。また、福島県には至る所に温泉地があり、日帰りも可能な気軽に行ける温泉巡りも楽しみの一つになっている。

2015年の1月、2月には上海、香港からのメディアの方が福島を訪問し、『福島の今』を各地で取材される機会があり、小生も同行した。福島県の果樹園、水産加工従事者の方を取材中に、業者の方の震災後の苦労話に記者の方が感動し何度も涙される場面があり、当県を応援する記事を寄稿いただき、風評被害に苦しむ福島県の方たちに大きな勇気を頂いた感がある。

このような中で、小生としても福島県の復興のために県産品の輸出促進を使命感を持って取り組む覚悟を新たにしている今日この頃である。



シンガポールでの天皇誕生日祝賀会、
 日本国大使と共に、右側が筆者



台湾での日本酒展示会に福島県として出展

自治体・中小企業支援

ABE Initiativeをご存じですか

いまい あきまさ
今井 昭正 (元 伊藤忠商事)

ABICには、2001年に帝京大学の英国キャンパス校長のお話を頂き、以来13年間同大学の教員を務めた。また2013年秋に、一般財団法人日本国際協力センター（JICE）「ABE Initiative」のお話があった。その事業内容から民間企業で豊富な国際経験があり、アフリカ市場に精通した人材が要求される。ABICがJICEに紹介した3人（元三菱商事の小西悟氏、元三井物産の藤井則雄氏、筆者）が、2014年4月から「国際協力機構（JICA）」の実施する「ABE イニシアティブ事業」の受託団体「一般財団法人日本国際協力センター（JICE）」において民間連携支援に参画している。

このODA事業のフルネームは『アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ「修士課程およびインターンシップ」プログラム（Master's Degree and Internship Program of African Business Education Initiative for the Youth）』で、アフリカ全54カ国から、約900人の留学生を日本に招聘し、「日本の大学の修士課程+日本の企業でのインターンシップ」により、日本企業の「アフリカビジネスの水先案内人」「日本とアフリカの経済交流の懸け橋」となる人材の育成を目指している。第5回アフリカ開発会議（TICAD V）の際、「官民一体となってアフリカの持続性ある経済発展を支援する政策」として安倍首相により提唱されたものである。自動車ビジネスを通して、アフリカのほとんどの国を知り、数カ国に駐在もし、大学教員をやったキャリアから、オールド・ソルジャーとしてお手伝いしているわけである。

天然資源に加え近年成長を続けるアフリカ市場（10億人市場）は、本邦への資源供給地域としてだけでなく、日本企業にとって将来有望な輸出市場の一つに成長しつつある。この事業ですでに150人ほどの留学生が来日し

ており、2015年9月来日予定の350人の選考が現在進行中である。

国際性豊かな皆さまはアフリカから何を連想されるだろうか。部族間紛争や難民問題、奴隷貿易、旧宗主国の植民地支配など負の要素が頭に浮かぶ方も多いのではないかと。本来同じような部族が同緯度ベルトに居住して、その多くが東西に移動する遊牧民として暮らす国であった大陸が、南北に長い国土に分割された歴史を乗り越えて経済発展に取り組むアフリカ諸国は、新たな時代を迎えつつある。

この事業の成功のためには、各国の旧宗主国や米国とのつながり乗り越えて、いかにして優秀な学生をリクルートするか、400社を超える日本の現地進出企業が、そのオペレーションの中心にいる有能な人材を2年間日本に留学させる余裕のない状況をどう打破するか、日本におけるインターンシップ受け入れ企業をどう量的に確保するか、という問題がある。留学生は自国と日本の懸け橋としての自覚を持ち、初年度夏のショート・インターンシップと学位修得後の本格的インターンシップに期待しており、日本企業のビジネス哲学や日本文化や日本人を理解した人材育成のため、このインターンシップは、事業成功のキーファクターなのである。

本稿をお読みいただいた企業の皆さまが、アフリカ市場の将来性に注目され、ぜひ本事業のインターンシップ受け入れ企業として名乗りを上げていただきたく、お待ち申し上げます。

お問い合わせ先：

一般財団法人日本国際協力センター（JICE）

留学生事業部

Tel: 03-6838-2713 担当者：片山和久

来日プログラムでの日本文化講座にて
(2014年9月)来日プログラムでの企業見学にて
(2014年9月)アフリカビジネスネットワークフェアで
熱心に企業に質問するABE研修員
(2015年3月)

教育

兵庫県立西脇高等学校で グローバル人材育成について講演

まつお けんじ
松尾 謙二 (関西デスクコーディネーター、元 伊藤忠商事)

いまだ寒さが残る早春の3月6日、年度末試験を終えた高1、高2生約600人全員が講堂に集合。ABIC会員平田和義氏（ヒラタ・アンド・アソシエイツ㈱の代表を務める）の講演が始まる。

演題は国際理解教育講演会として「グローバルに活躍できる人材の育成」。ここは兵庫県の中央部、西脇市の兵庫県立西脇高等学校の体育館兼講堂。同校は播州織物の実習校として平成26年度SPH（Super Professional High School）に採択され、実業と進学に励む。OBに画家の横尾忠則さんがおられる（同氏が寄贈された幾つかの作品がメイン校舎の玄関を上がった2階の広間に展示されている）。スポーツで有名な西脇工業高等学校とは兄弟校である。

2014年12月初め西脇高校よりABIC東京にグローバル人材育成「英語学習とキャリアプラン」についての講演依頼が舞い込んだ。早速入選にかかりABIC会員の中では最も若いと思われるが、キャリア等を考慮すると講演者としては最もふさわしいと思われる平田氏をお願いすることを決め、同校に話を持ち掛けたところ、ぜひともとの返事があり決定。年明け早々に事前打ち合わせのため平田氏と筆者が同校を訪問し、学校側の要望を聞いた。その後学校側

と平田氏の間で何回か交信を重ね講演当日に至った。

まず平田氏が生徒に分かりやすい英語で、自己紹介を兼ねて生徒たちに語り掛けた。大学卒業後にカナダ留学をしたことや、自分で立ち上げた留学関連事業（日本の若者を海外に、海外の若者を日本の学校に呼び寄せる等の国際交流のための事業）の具体的事例を挙げ説明すると、生徒の目が輝やいてきた。生徒の興味が盛り上がってきたところで、今度はSkypeで米国の友人を呼び出し、英語で会話を始め生徒の度肝を抜いた。ほとんどの生徒が、今まで経験したことのない海外との生の英語のやりとりに感動する姿があった。

Skypeでの会話が終わり話は核心へ。グローバル化した現在の社会では世界の人たちとのコミュニケーションのためには英語は必須であり、また、多様性を認めるとともに世界的視野でモノを見る目を養うことの必要性を熱く語った。

さらに、今後の就職活動においても英語だけで試験・面接が実施される企業もあり、生きた英語の習得の重要性を再度強調された。

最後に、高校生より生きた英語をどのように学べばよいのか等の質問も出て、講演は大いに盛り上がった。



兵庫県立西脇高等学校での講演の様子

教育

一橋大学商学研究科HMBAの 留学生プログラムの演習（ゼミ）

たにがわ たつお
谷川 達夫（大学講座担当コーディネーター、元 住友商事）

2012年から一橋大学商学研究科経営学修士コース（HMBA）で、海外からの留学生に日本の産業と文化について教えるゼミを担当している。

このHMBAコースは2000年に開設され、社会人教育、高度職業人教育のためにスタートした。開設当初から外国人留学生も入学していたが、2012年度から海外の入学希望者の要望を背景として留学生プログラムが開設された。これは日本での滞在経験が短い（もしくはない）海外の学生を対象として、①別枠の入試「外国人特別選考」を行い、②1年次前半に日本語とこのゼミ「日本の産業文化」で集中教育を受ける、③1年次後半からは他の一般学生と合流して、HMBAとしての本格的な学習を進めている。

入学者は一流大学卒業の22歳から32歳までで、実務経験を有する学生が半数以上、2015年度は20人である。今までの留学生の出身国籍は中国・台湾・韓国・ベトナム・タイ・モンゴルで、男女比率は約7割が女性となっている。日本語はN1合格していることが最低の条件で、入学後の半年の集中教育で日本語は一般学生とまったく遜色ないレベルに例年達している。



伊豆湯ヶ島温泉白壁荘でのゼミ合宿



ゼミの講義やプレゼンテーションを行う教室

このゼミは次の4部で構成され、講義されている。

- 1) 日本型経営の特色について
- 2) サービス産業（総合商社をケースとして）
- 3) 製造業（自動車・建設機械産業をケースとして）
- 4) 日本の企業と社会（文化面では日本旅館の経営をケースとして）

そしてこのゼミの特色は、月1回校外学習として、講義内容と関連する企業を訪問していることである。

訪問先は4月に乳飲料製造会社、5月にテレビショッピング運営会社のスタジオとコールセンター、6月は伊豆湯ヶ島温泉の日本旅館でゼミ合宿、7月は自動車販売店（一般車と高級車チャンネル）となっている。事前にゼミ生には訪問先の会社の調査・学習をさせ、担当グループがその結果のプレゼンテーションを行う。また事前にゼミ生の質問を訪問先に提出して、それを反映した説明や回答を受けて訪問の効果을挙げている。日本旅館では女将から「おもてなしと旅館経営」についての講演や、抹茶のお手前、浴衣・振袖の着方なども学んでいる。学生には貴重な経験ができる大変好評だ。

HMBAに入学してくる学生は、キャリア向上志向が非常に強い。一橋大学は少人数のゼミ教育が伝統的で、講師とゼミ生の全人的な交流が特徴である。商社出身の筆者に加えゲストスピーカーとして、銀行・建設機械会社出身者が専門領域の講義をしている。このゼミの構成や運営は、留学生の理論と現実を学びたいという要望に応えるように作られ、就活やキャリアアップにも役立っている。グローバル人材教育の一つのモデルと考えられる。

なお一橋大学の国際教育センターでは、英語開講で「グローバル自動車産業論」や「日本型経営論」も学部生対象にABIC講師が担当している。



トヨタ西東京カローラ本社の整備工場見学

小学6年生と共に学ぶ

くどう あきら
工藤 章 (元 三菱商事)

「私は、世界でも通用するような人になるために、日本人としての基礎知識を学び、異文化への興味、関心の心を常に持ち、何ごとにもチャレンジしていきたいと思えます」。授業に出席した子供たちからさまざまな感想をもらった中で、授業に出掛けたかいがあったと感激させる多くの感想文の一つに書かれていた文章だ。

2014年9月19日にABIC小中高校国際教育グループの川俣氏から、ABICと協力関係にある財団法人日本経済教育センター経由で小学校の国際理解教室への出講の依頼が来ているが、挑戦してみる気はないかとの依頼があった。ABICの紹介などで大学生相手の講義の経験は数多くあったが、小学生相手の経験はないので満足な授業ができるか自信を持たず、返答に窮した。授業の進め方を教えるからとの川俣氏からの熱心な説得があり、この依頼に応じることにした。

中南米での40年を超えるビジネス経験と、通算で22年の南米駐在経験をベースに、中南米の政治・経済・社会についてさまざまな講義や講演を行ってきたが、その際に使ったパワーポイントの改造に取り掛かった。日本人が中南米でどのような活躍をしてきたか、今後はどのようなことが日本人に期待されるかを説明するのに適したものを選び出し、視覚に訴えるものに変えた上で、アニメーション機能を使ってクイズ方式に模様替えした。授業の内容は、できる限り自らの現地での経験を通じて語り掛けるようにした。しかしながら、現地の最近の義務教育の実態や子供たちの生活・考え方には疎いこともあり、ブラジルを中

心に現地の関係者に問い合わせ多くの情報を集めて補強をした。

約1ヵ月の準備期間を経て、2014年10月30日に江東区立第三砂町小学校、次に11月11日に台東区立田原小学校で授業に臨んだ。授業のタイトルは「日本とラテンアメリカ」、両校共に6年生全員、約120人が対象で、10分の休憩を挟んで100分の授業。体育館の床にじかに座った子供たちに見上げられ、表情豊かな輝く瞳に見詰められ、自然に話が入った。準備に苦労したクイズ方式のパワーポイントを使ったおかげで、授業の最後まで、子供たちの興味を継続させることができた。話し終えた後の質問の時間では、大学などで経験したことのないような質問攻めであった。ほとんどが的を得た質問であり、さらに、思いもよらぬ視点からの質問もあり、子供たちに教えられる面が多々あった。

近頃の大学生のレベルを超えるような、理路整然として美しい文字で書かれた感想文が多くあったことに驚かされたが、感想文を読みながら授業を思い起こすと、白い紙にインクが広がるような子供たちの強力な知識吸収力に感銘した。そして、夢多き子供たちに、日本にとどまらず世界を知り広い視野を持ってもらうことの重要性を再認識した。このような機会を作ってくれた両校とABICに感謝するとともに、引き続きABICの教育分野での活動に期待をしたい。



江東区立第三砂町小学校での授業風景

留学生支援

日本語教師養成講座を振り返って

日本語教師養成講座講師 すずき まつこ 鈴木 松子

「梯子の頂上に登る勇氣は貴い。さらにそこから降りてきて再び登り返す勇氣を持つ者はさらに貴い。大抵は、一度登ればそれで安心してしまふ。そこで腰を据えてしまふ者が多い。登り得る勇氣を持つ者よりもさらに降り得る勇氣を持つ者は、真に強い力の把持者である。」これは、速水御舟の言葉である。私は、退職後さらなる挑戦をなさる皆さんに敬意を表してこの言葉を贈り、お互いが心寄せ合って真っ白なキャンパスにきれいな絵を描いていただくべく、5年半にわたり、本講座の講師を務めてまいったが、個人的都合により、第17期をもって終わらせていただくことになった。

本講座の第7期から第17期までの11期で80人の修了生を見送り、今皆さんがさまざまな場所でさまざまな形で活躍をなさっているのを大変うれしく感じている。

「学ぶことは素直さにあり、ひいては教えることも素直さにあり」をモットーに、徹底した基礎の確立と柔軟性を持った思考力で物事を展開する、かついかに難しいことを易しく教授するかということが私の基本理念である。その理念に基づいてこの5年半ご指導申し上げてきた。

日本語教師とは、学習者にゆっくりと、分かりやすい説明で、相手の反応を感じて相手の立場になって会話をする、習いたい気分させること。講じるのではなく、コミュニケーションの手助けになるような授業をすることである、という考えから徹底して基礎の重要性を訴えてきた。



講座風景



第17期日本語教師養成講座修了式

実践の後半の授業では、自分で教材を作成しそれを使ってトライアルをしてもらっていた。「昨夜は、先生の顔が浮かび、また『却下』と言われるのではないかと思います、よく眠れませんでした」と言いながらも、時には大声で笑いお互いが切磋琢磨して頑張っておられる皆さんの姿が懐かしく思い出される。

「鬼のように厳しく、優しい」と言われ、自分自身も自覚するところだが、それも心を鬼にしてひたすら皆さんの上達を願い、必死にやってきた。修了して独り立ちしたときに、講座で学んだことの重要性を痛感するとの言葉を頂くとほっとする。日本語教師として歩み始めた皆さんには、自分が楽しみながら学習者一人一人に^{たいし}対峙して笑いのある教室をつくってほしい旨を伝えている。

一方、組織に文化が根付くように、クラスごとに独自の文化が形成される。11期それぞれに色があり、和ができており、半分以上の期において、定期的に食事会をしている。会うたびに談論風発、その時々^{たいし}の状況を語り合い、健康に留意して次に会う約束を交わしている。講座で結ばれた縁がいつまでも続くことを願っている。

これからますます日本語教師の要請が高まる状況において、ABICのご尽力で未永くこの養成講座が続いていきますことを心から祈念します。そして、すてきなご縁を頂き、これまでご支援いただいたことに深く感謝申し上げます。

留学生支援

兵庫国際交流会館での活動

2014年秋の新入館者WELCOMEバザーに続き2回目のバザーに参加

5月23日(土)兵庫国際交流会館でバザーが開催された。現在の入館者は、この春に入館した学生も含め総勢169人と2014年比微増。バザーには入館者の友人や外部からの参加者もあり、大まかに総勢約200人が参加し活況を呈した。

ABIC会員の皆さま方はじめ支援企業ならびにその社員・ご家族、および日本貿易会役職員の方々から広範囲にわたる商品を45箱ご寄贈いただき、初回を上回る4万9,800円の売り上げとなった。バザー売上金は同館の留学生支援活動資金として提供させていただいた。

2014年同様ルワンダ、ブルキナファソ、ナイジェリア等アフリカ諸国からの留学生に加え、バングラデシュからこの春入館した学生もおり、皆さま方からの寄贈品、特に各種生活必需品、食器や料理道具等々は払底するほどで、関係者からは新入館者が増える秋にもぜひ同様のバザーを開催してほしいとの要望があるなど極めて好評であった。

このバザーは単に商品を販売するだけでなく、学生にとってはイベントとして楽しんでいる様子もうかがえ、関西デスクでは関係者の皆さま方のご協力をもって今後ともぜひ継続していきたい。

また、会員の皆さま方には商品をご寄贈いただくだけでなく、次回からはぜひ同会館のバザーにお越しいただき、留学生と交流していただければと願っている。

兵庫国際交流会館とはバザーだけでなく、広範な留学生支援を遂行いたしたく、今般、東京本部の関係者のご協力を頂き、同会館での日本語教室・空手・華道・書道教室をスタートさせた。

これらの活動、特に日本語教室の講師等に興味をお持ちの関西在住の会員の方々、また、お知り合いの方々はぜひ関西デスク宛てご連絡をいただきたく、皆さま方の一層のご協力とご支援をお願い申し上げます。

(関西デスクコーディネーター)



東京国際交流会館での活動

春の新入館者歓迎バザー

5月30日に第27回のバザーと歓迎会がお台場にある東京国際交流会館で行われた。当日は潮風が交流館の木々にそよぎ、初夏の日差しが心地良い土曜日であった。

今回はA棟の自習室および隣接する広間が会場となり、陶磁器や便利な台所用品、子供衣料や玩具が多く出品された。開催方式にも工夫がなされ、当日授業、実験などで参加できない入館者のために、別途前々日の28日夕刻7時から下見会も設定され、ゆったりと品物を選べるようになった。来場者数は、バザーへは下見会を含め約350人、引き続き夕刻に行われた歓迎会へは約200人であった。

今回もABIC会員および支援企業とその社員、ならびに

日本貿易会の役職員等の方々から200箱を超える貴重な品物をご寄贈いただき、15万円の売り上げを得ることができた。バザー売上金は従来同様に、同館の留学生支援活動に提供させていただく。ご支援くださった皆さまには厚く感謝申し上げます。

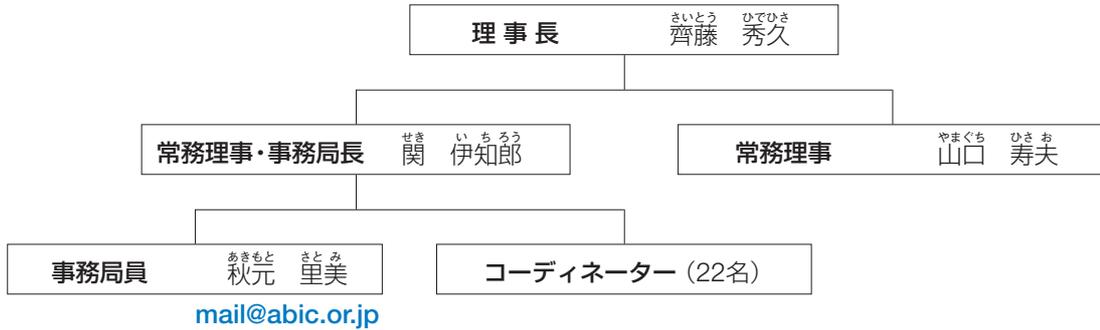
なお、交流館のご厚意で今年(2015年)もABICブースを設置していただき、日本語広場講師など6人が待機し、ABICの活動状況説明や提供している各種講座の勧誘を行い、その結果20件の講座申し込みを得た。

(留学生支援担当コーディネーター)



ABIC事務局組織

2015年6月1日より下記の体制となりましたのでお知らせ致します。



〈コーディネーター〉() は兼務者

- 総務・広報・OA めいきょう げいじ くらき ひろみ あおやぎ ゆき
名鏡 敬治、黒木 裕美、青柳 友紀
- 経理 (名鏡 敬治)
- 自治体・中小企業支援グループ かわまた じろう のつ ひろし しらいし いちろう にいつま じゅんいち
川俣 二郎、野津 浩、白石 一郎、新妻 純一、(高塚 謙次)
smesupp@abic.or.jp
- 外国企業支援グループ にしやま かつあき みやうち ゆうじ
西山 勝昭、宮内 雄史
support@abic.or.jp
- 大学・EC講座グループ もり かずしげ いがり まゆみ ふ せ かつひこ たにがわ たつお おんだ ひてはる ばんの まきのり
森 和重、猪狩 真弓、布施 克彦、谷川 達夫、恩田 英治、坂野 正典
univ@abic.or.jp
- 小中高校国際理解教育グループ たかつか けんじ
高塚 謙次、(川俣 二郎)
krikai@abic.or.jp
- 留学生支援グループ たなか たけお くわがた いまお
田中 武夫、鋳形 勲
abicodaiba@abic.or.jp
- 中南米デスク (森 和重)
chunanbei@abic.or.jp
- 関西デスク ふじわら てるあき たちばな ひろし よしとみ しげたか まつお けんじ
藤原 照明、橘 弘志、吉富 茂隆、松尾 謙二
kansai-desk@abic.or.jp
- 産学共同プロジェクト (川俣 二郎、橘 弘志、松尾 謙二、高塚 謙次)

e-mailアドレス・住所等の変更届けはお忘れなく！

e-mail アドレス・住所などの変更がありましたらご連絡ください。
転居先不明で返送される例が増えています。

e-mail : mail@abic.or.jp FAX. 03-3435-5970

会員の種類

| 種類 | 内容 | 年会費 |
|------|---|-------------------|
| 正会員 | センターの活動を推進する個人、法人及び団体。 (理事会の承認を得て入会) | 法人及び団体 1口 50,000円 |
| | | 個人 1口 10,000円 |
| 賛助会員 | センターの趣旨に賛同し、会費を納める活動会員、並びに個人、法人及び団体。 | 法人及び団体 1口 10,000円 |
| | | 個人 1口 5,000円 |
| 活動会員 | センターに登録し、センターの事業に参加しようとする個人。 | 不要 — — |

正会員

団体・法人（17社）〈社名五十音順〉

〈10口〉 (一社)日本貿易会 伊藤忠商事(株) 住友商事(株) 双日(株) 豊田通商(株) 丸紅(株) 三井物産(株) 三菱商事(株)
 〈4口〉 (株)日立ハイテクノロジーズ 〈2口〉 稲畑産業(株) 岩谷産業(株) 長瀬産業(株) 阪和興業(株)
 〈1口〉 兼松(株) 興和(株) JFE商事(株) 蝶理(株)

個人（11名）〈入会順・敬称略〉

池上 久雄 寺島 實郎 小島 順彦 宮原 賢次 吉田 靖男 岡 素之
 佐々木 幹夫 勝保 宣夫〈3口〉 小林 栄三 槍田 松瑩〈3口〉 市村 泰男

賛助会員

法人（5社）〈社名五十音順〉

(有)イーコマース研究所 (株)エックス・エヌ 協同木材貿易(株) (一社)国際行政書士機構
 NPO法人賛否両論〈3口〉

個人（398名）〈敬称略・氏名五十音順〉

〈5口〉 廣瀬一郎 〈3口〉 太田弘之 前田茂 〈2口〉 遠藤寿一 小川秀洋 鬼山敬邦 川俣二郎 久佐賀義光
 公平伸夫 古知屋順 三幣利夫 篠原博 白石一郎 新藤哲雄 高廣次郎 多田勝彦 田中武夫 新妻純一
 花岡信明 原芳道 坂東寛隆 藤井吉郎 藤井眞 細井進 前田耿史 松井史郎 松尾謙二 松岡鉄 宮内雄史
 名鏡敬治 柳沢信義 山田芳正 山本一良 米代憲雄 〈1口〉 会川精司 相澤裕 相原正和 赤尾義弘
 赤澤克夫 赤田堅 芦刈茂樹 東光子 安達晋 厚浦孝之 安部忠 阿部徹 阿部雅志 荒木幸成 有田五郎
 有田捷一 居内律治 伊賀豊和 猪狩眞弓 生島幸哉 池田正久 石川清 石橋満 市川彬 伊藤栄太郎 伊東孝之
 伊東泰 井上良彦 今井明良 今井正孝 岩本洋之 植木正憲 上田巖 植田俊 上田博晟 上野和郎 上森義美
 宇佐見和彦 薄葉徹郎 宇田定三 内川博文 内田康治 漆崎隆司 江藤茂雄 榎本啓一郎 榎本盛明 江幡吉信
 遠藤恭一 遠藤眞喜子 大木隆 扇文子 大久保浩司 大久保徳衛 大浩義之 大坂和夫 太田俊一 太田宏
 大西稔男 大橋幸多 大道豊彦 大森日出太郎 小笠原明生 小笠原正広 岡田一茂 岡部紘 岡部好夫 岡本勝彦
 岡本正 岡本徹 小川洋志郎 小口良喜 小國輝雄 奥畑和夫 奥山正裕 小沢規夫 小澤清水 小畑克之
 小船井達夫 表尚志 織辺重之 恩田英治 柿山章 角井信行 糟谷純一 片岡紀二 片野無事生 片山丈義
 加地潤二 加藤正芳 加藤保弥 金井好弘 嘉根俊治 金子和夫 金子康之 金子義久 神谷誠一 加輪上敏彦
 川嶋則男 川副和之 川村勝司 川本康博 川本恒彦 閑林亨平 岸達也 北詰良三 吉川和夫 木村好作 木村滋
 木村秀志 久木田修司 櫛田光彦 楠井裕章 工藤章 久保田隆 久保山毅 隈元泰弘 久山周孝 栗田政彦

(賛助会員続き)

黒岩浩一 黒岡誠一 鋤形勲 郷原康親 国分利敬 古園井良 児玉正博 後藤克 小島孝治郎 小峯征三郎
 小室洋三 近野治夫 齋藤幸博 酒井邦展 坂井啓治 坂上恵一 坂本章 坂本俊寛 坂本行正 作田幸夫
 笹岡太一 笹岡治男 佐藤貴実雄 佐藤徹 佐藤充宏 佐藤隆二 佐良木忠男 沢田修吾 澤田豊治 塩野寛次
 志岐明弘 七字道彦 信田光久 島悠紀夫 島谷豊 城台巖 白井俊和 白土茂雄 城田比佐子 水光勲
 須賀直比古 杉下由紀子 鈴木明 鈴木一三 鈴木惟高 鈴木成高 鈴木紘司 鈴木昌弘 鈴木松子 須藤實
 住井純三 関晃典 関晴至 関統造 関口幸男 園田真一 高崎浩敏 高嶋宏臣 高田忍 高田弘 鷹津俊一
 高塚謙次 高梨和彦 竹下浩 竹田信志 竹山克則 田島基二 橋弘志 田中昭彦 田中功 田中剛 田中徹郎
 田中英樹 田中理明 田邊正明 谷川達夫 谷口武彦 玉木興晶 丹治敬 淡野武司 千野公弥 千原長美
 柘植幸弘 柘植要介 辻哲彦 辻萬亀雄 辻喜男 辻尾嘉文 土屋英五 都築秀之 津守克平 手塚正明 寺澤昌敏
 寺田好純 東宮邦雄 遠山晃 戸川順治 徳田均 都丸啓吉 富島紘一 友國洋 豊原道雄 中倉弘紀 長坂保男
 中嶋昭 中嶋鴻明 中島隆一 中園智子 仲田慎太郎 永田明司 中西孝之 中野英俊 永峰千年 中村静雄
 中村昂 中村紀雄 中村恭紀 梨本進 名達博吉 成重正和 西以久夫 西桂二郎 西川裕治 西澤俊一 西山勝昭
 似鳥進 新田充成 根岸徹 根岸史修 野口順一 野地哲臣 野津浩 野村哲三 則満洋祐 橋本裕一 橋本政彦
 橋本勝 蓮沼恒郎 畑宏幸 畑野浩 羽生憲夫 馬場克彦 浜田元雄 林進 林常介 林裕二 林良英 葉利博
 坂野正典 日笠徹 疋田和三 肥後照雄 菱川治 日比野圭三 平野實 廣田幸男 福井隆治 藤井希祐 藤井義親
 藤井重隆 藤田敬子 藤田卓 藤村登 藤森伸知 藤原照明 布施克彦 舟橋金之介 古瀬輝明 古橋肇 保坂庄司
 星野和俊 星野三喜夫 堀英一 堀正美 堀江博 前田祥治 前田直明 増田政靖 増本光男 松浦義則 松岡壽夫
 松下敏明 松村直治 松本信司 松本時男 松山功 松山久 丸山松男 三上垂佐橘 三神博美 三木喜道
 水野伸二 味田村正行 三栗敏 光山武志 南賢 峯本晴輝 宮井利之 宮内眞正 宮内正敬 宮川正裕 宮崎善嗣
 宮本正明 三好賢治 武藤滋郎 村澤嵩 村瀬省三 村林栄彦 持田修二 望月孜 森悦郎 森岳三 森和重
 森達也 森秀夫 森川建夫 森田貴彦 森松直毅 矢尾板健二 柳田敏明 山内文裕 山内幸雄 山岸正雄
 山崎和彦 山路裕之 山下勝博 山田雅司 山田恭暉 山邑陽一 山本啓二 山本秀一 山本博勝 横井正豊
 横田納 横田淑子 横山泰雄 吉川正男 吉田紘 吉田房子 吉田泰興 吉富茂隆 米谷俊二 鷲頭三郎 渡邊健三
 渡邊春樹 渡邊義夫

活動会員 2,583名

(2015年5月末現在)

賛助会員入会のお願い

ABICの活動にご賛同いただき、資金的な援助をしていただける活動会員及びその他の個人の方、
並びに法人及び団体の皆様のご入会をお願い申し上げます。

会員入会のお問い合わせ・連絡先

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター (ABIC)

〒105-6123 東京都港区浜松町2-4-1 世界貿易センタービル23F

TEL : 03-3435-5973 FAX : 03-3435-5970 E-mail : mail@abic.or.jp